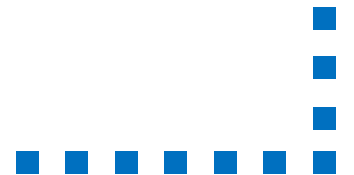


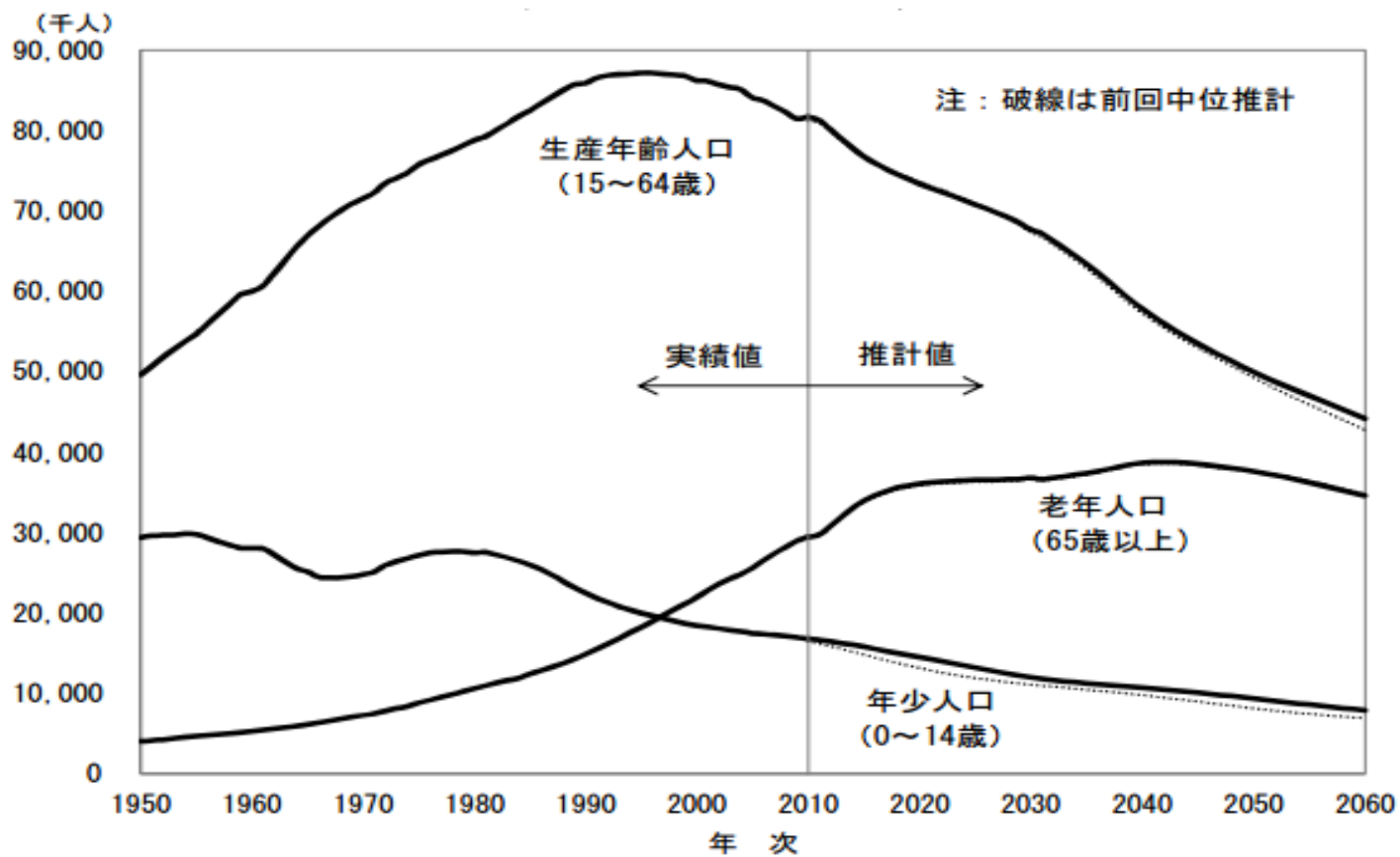
高年齢者労働者の健康管理



目次

- 高齢化社会の現状
- 高齢者雇用について
- 高齢労働者の安全衛生対策
- Work Ability Index
- まとめ

年齢3区分別将来推計人口



人口減少、高齢化する社会

- 人口に占める65歳以上の高齢者の割合（高齢化率）は、2011年には22.7%に達した。この数字は、2060年には39.9%に上昇することが予測されている。
- 団塊世代が75歳を迎える2022年の前には、75歳以上の後期高齢者人口が、65～74歳人口を上回る。

高齢者就業が、社会的に必要となる

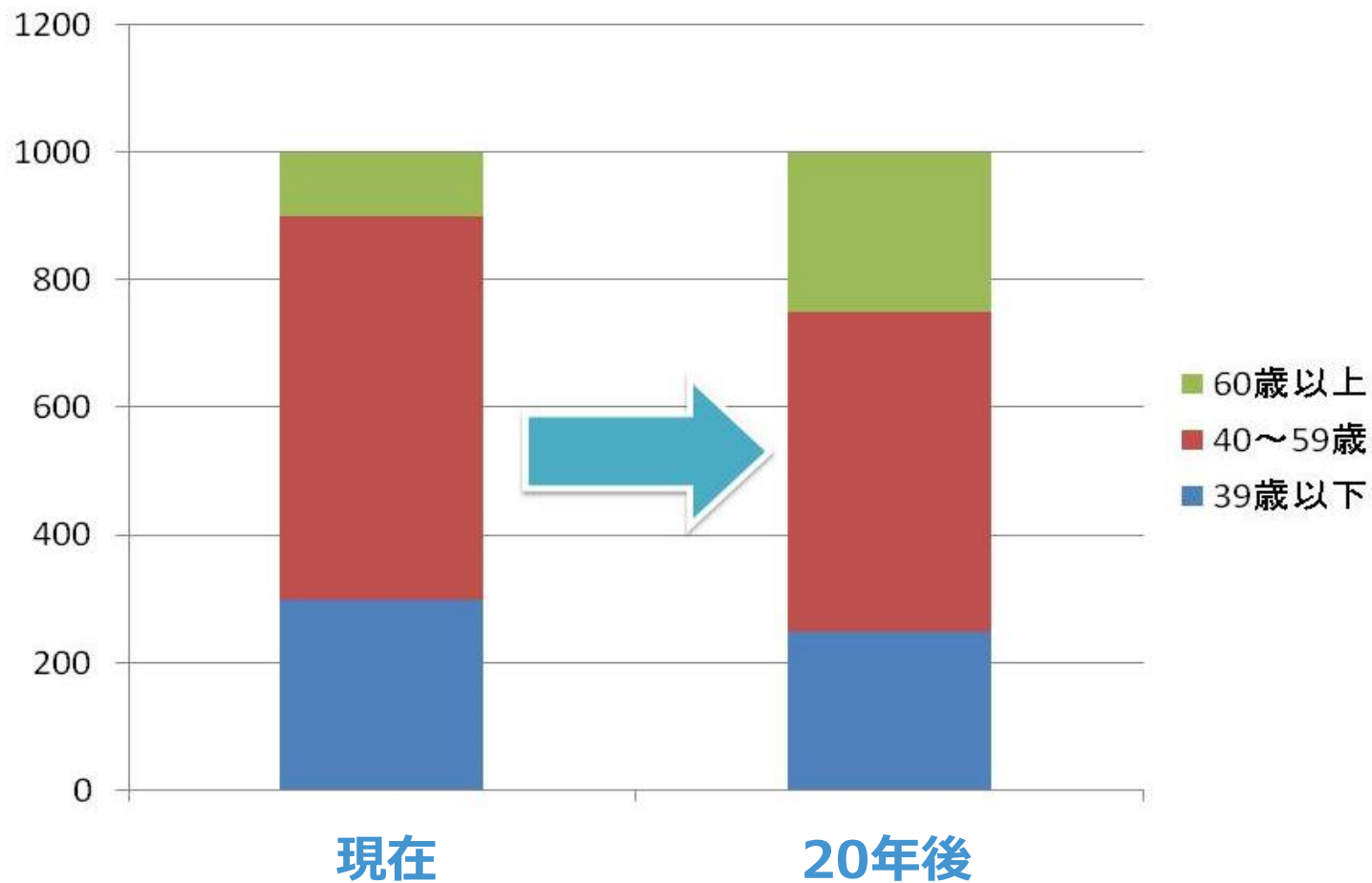
高齢者雇用安定法の改正ポイント

■ 次の措置が、努力義務から実施義務へ

- ① 65歳までの定年年齢の引き上げ
- ② 継続雇用制度の導入
- ③ 定年の定め廃止

- 対象とする上限年齢は段階的に引き上げることが可能に
- 募集・採用に当たり上限年齢を設定する場合の理由の書面による明示

A社の人口シミュレーション



高齢労働者の活用が課題に

高齢労働者の特徴

プラスの側面

- 経験・知識が多い
- 忍耐力がある
- 労働意欲が高い¹⁾

マイナスの側面

- 身体能力が低下
(視力・聴力、筋骨格系
バランスなど)
- 健康面での個々人の
バランスが大きい
- 変化に弱い

1) 「健康状況と就業意欲」厚生労働省『高年齢者就業実態調査』(2004年)

視機能低下に対しての具体例

- V D T 作業では、画面の文字設定を大きくする。
- 細かい作業が必要な職場では、休憩時間をしっかり取る。
- 危険作業場では、照明を明るくする。

これらは、一般労働者の作業負担の軽減にもつながる

筋骨格系バランス低下に対しての具体例

- 階段に手すりを設置する。
- なるべく段差は小さくなるようにする。



作業環境(設備)改善が必要に。

- 危険作業場では、作業可能かどうかの、定期的なチェックをする。

健康面の個人差への対応

リスク要因

視力・聴力低下、生活習慣病、がんなど



個人の状況の正確な把握と対応



健康診断、人間ドックの活用

産業保健スタッフの活用

個別対応の重要性が増す

個別対応の具体策

- 60歳以上に対する健診項目の充実
- 健診後の全員面接
- 定期的な通院に合わせた、勤務体制
(通院、服薬内容の確認)
- 緊急対応の強化
(A E D 設置、研修、かかりつけ医の確認)

一般従業員に対する産業保健サービス向上にもつながる

産業保健職に可能な職能評価

- 労働能力を左右する健康水準を的確に把握した上で、労働の場における機能年齢などを評価する。
- 「評価」を用いて、適正な労働負荷を設定し、高年齢労働者の能力を有効活用する。
- W A I を用いた評価

Work Ability Index(WAI)とは？

- 10の質問からなる質問票で、面接にて質問に回答
- 質問は7つの項目にまとめられる
- 点数が高いほど労働適応能力が高いと判断

【 質問7項目 】

- ① 現在の労働適応能力は今まで一番良かったときと比べてどのくらいか
- ② 肉体的、精神的に仕事の要求にどのくらい適応できているか
- ③ 現在医師に診断されている疾病の数
- ④ 疾病のためにどのくらい仕事に支障をきたしているか
- ⑤ 過去1年間の病欠日数
- ⑥ 2年後に同じ仕事をしていられるか
- ⑦ 心の状態(日課を楽しめる、活動的である、将来に希望が持てる)

注) ただし使用には、管理元への連絡、データ登録など一定の条件あり！

産業保健スタッフのW A I の活用例

■ 60歳以上にW A I 実施



■ W A I 評価



- 産業医面談
- 意見書作成

まとめ

- 労働人口減少が確実な社会では、
高齡労働者の活用が不可欠
- 高齡労働者の身体機能低下は見られるも、
個人差が大きく、個別対応が重要
- 産業保健スタッフは、個別対応やWAIの活用により
高齡労働者活用の支援が可能